－屋嶋城跡浦生石塁について－

高松市教育委員会　2010.4.25

（空中写真－屋島山上の城壁と浦生石塁の位置－）

【浦生の石塁と屋嶋城】

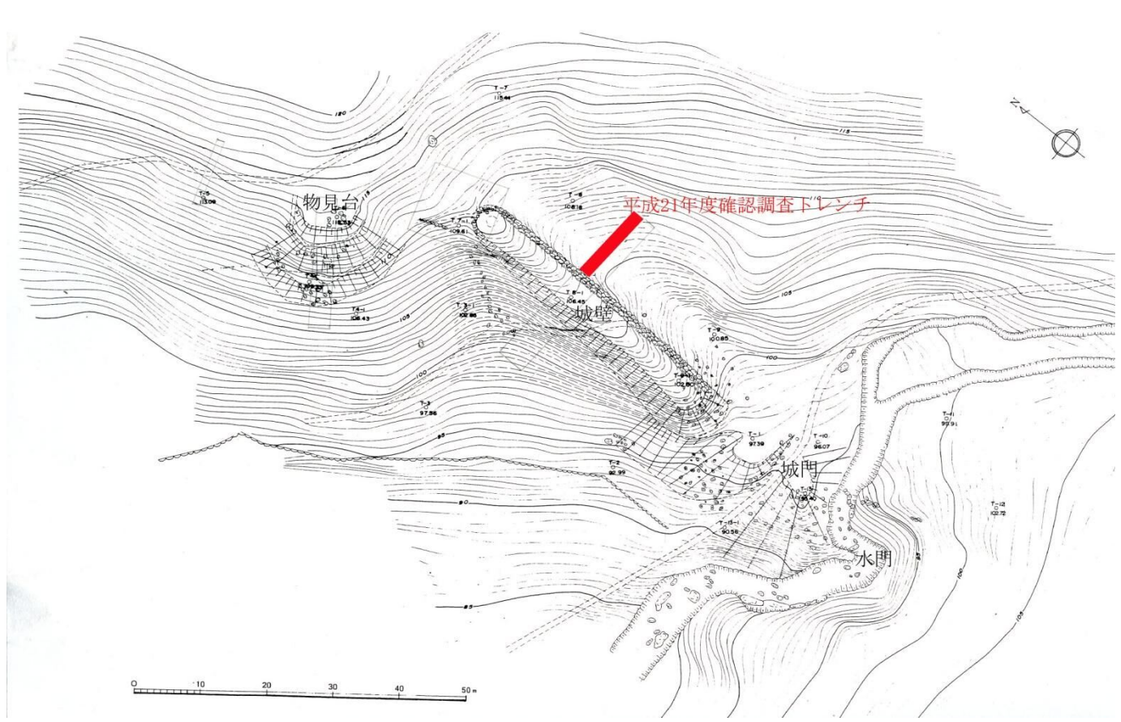
瀬戸内海に面した浦生地区の奥に，屋島の北嶺と南嶺に挟まれた大きな谷があります。この谷は大谷と呼ばれていますが，鑑真ヶ谷，弘法谷ともといい，屋島寺を創建した鑑真か，あるいは同寺を中興した空海がこの谷を山上に向かって上がったとされ，海岸の浦生と山上を結ぶ道であったと伝えられています。谷に沿ったこの道は，現在も登山道として残っていますが，緩斜面がやがて急斜面になるところに，浦生石塁があります。昔，この周辺は「櫓の内」，「櫓ヶ岳」という城跡を示すような地名があったようです。

屋嶋城については，『日本書紀』に天智天皇６年（６６７年）に築城されたという記事があります。近年，山上部で城門，水門，土塁といった城壁遺構が見つかっており，屋嶋城が実在したものであることが分かってきましたが，それまでは，この浦生石塁が屋嶋城を示す唯一の大規模な遺構とされてきました。

【これまでの経緯】

浦生石塁について，具体的な調査が始まったのは大正時代からです。大正１１年には香川県史蹟名勝天然記念物調査報告において，日本書紀に記載された屋嶋城とは北嶺・南嶺を取り囲む広大なものであるが，なかでも浦生地区に残る石塁が城跡の遺構とされました。また，この報告では石塁が城門，水門，城壁，櫓の特徴を備えたものとして列挙されています。この後，昭和９年，屋島が国の史跡天然記念物に指定される際には，「天智天皇６年外寇防備の為に築かれた山城の一なり」として史跡の一つとして評価もされています。

これまでの発掘調査は，昭和５５年度に高松市教育委員会が実施したものが唯一でした。その際に測量した成果によると，石塁は長さが約１１０ｍにもおよび，幅が６～９ｍの規模をもつものであることがわかっています。また発掘では出土品がありましたが，何れも中世の時代のものであったことから，古代のものであるとの確証が得られず『日本書紀』に記された古代の山城と断定しにくい状況になっていました。



（浦生石塁測量図－遺構配置と平成２１年度調査地点－）

【平成２１年度の発掘調査について】

このように浦生石塁が，屋嶋城に関した大規模な遺構とされながら昭和５５年度に実施し確認調査以降には，資料の蓄積がなく，十分な評価が行えない状況でした。

このような状況から高松市教育委員会では，出土品による年代の特定とともに，城の構造についての資料蓄積を目的とした調査を実施することにしました。

調査の初年度である平成２１年度については，物見台，城壁，城門，水門で構成するとされる石塁の現況を確認しやすくするため，下草刈りおよび落ち葉掻きなどの清掃作業を行いました。

発掘調査については，石塁の内側に設けた既往（昭和５５年度）の発掘範囲と重複させて，５５年度の調査で出土した中世土器の包蔵状況，土の堆積について再確認を行うとともに，石塁の断面構造を把握することを目的に実施しました。発掘の範囲は，既往の調査範囲より一回り広い，長さ１５m，幅２m前後で，山の基盤層までを目指して人力によって掘削した結果，深度は最深部で１.７mになりました。

【調査成果について】

発掘を進めていると，石塁の奥の山側から転落してきたと考えられる石に混じって，土器の破片がいくつか見つかり，つなぎ合わせると須恵器の平瓶（へいへい）であることが分かりました。この土器は，『日本書紀』に記された屋嶋城が築かれた時代と同じ頃である７世紀後半頃の特徴をもつものでした。この築城時期と合致した土器の出土によって，かねてから推定されてきたように，浦生の石塁が屋嶋城の遺構である可能性が高くなりました。また土の堆積状況から，現在，地表面に現れている石塁は盛土によって基礎が築かれている可能性が高いことも分かりました。

【今後の展望について】

今回の調査で須恵器が出土した深さから考えると，石塁が造られた当時の地面は今よりも低く，現在は埋まっている部分も多いことが分かってきました。今，地表に見える石塁から物見台・城壁，城門・水門の遺構が推定されていますが，さらに別の遺構や当時使われたものが埋まっている可能性があり，今年度以降も調査を継続して行う予定にしています。今後の調査により浦生の石塁が，古代の山城としてその内容が明らかとなれば，屋嶋城を山上の城壁遺構に加えて，山の中腹にも防御機能を備えた城として考えることができることになるでしょう。

石塁遺構内側の状況（奥に見えるのが石塁，手前の調査範囲の底が造られた当時の地面）

平成２１年度発掘調査出土須恵器（すえき）平瓶（へいへい）

【須恵器平瓶】 須恵器は5世紀に朝鮮半島から伝わった轆轤（ろくろ）と窯を用いて製作する技術によって，平安時代まで生産された。青灰色を呈し硬い陶質の土器で，古墳副葬品などの祭祀供献用，宴席などの供膳用，日用品で用いられた。